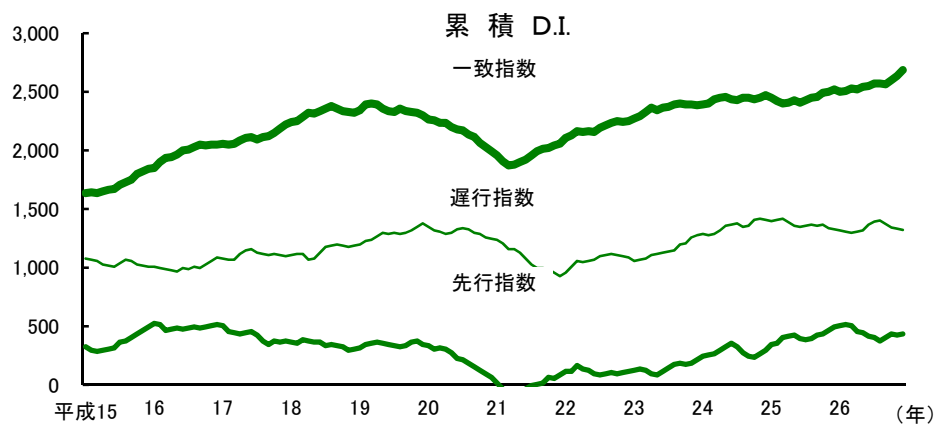


1. 景気動向指数

平成 26 年 12 月の景気動向一致指数は、有効求人倍率、大口電力使用量、大型小売店販売額（実質）、鉱工業生産指数、鉱工業出荷指数、雇用保険受給者実人数（逆）の 6 項目がプラスとなり、全体では 100.0%と 3 カ月連続で 50%を上回った（7 項目のうちプラス 6、横ばい 1）。

先行指数は、新規求人数（パート含む）、新車登録台数（乗用車）、鉱工業在庫率指数（逆）の 3 項目がプラスとなり、全体では 60.0%と 2 カ月ぶりに 50%を上回った（5 項目のうちプラス 3、マイナス 2）。

遅行指数は、資本財出荷指数、貸出約定平均金利の 2 項目がプラスとなったものの、全体では 40.0%と 4 カ月連続で 50%を下回った（5 項目のうちプラス 2、マイナス 3）。



注) 今月の累積DI=前月の累積DI+(今月のDI-50)  
一致指数には1,000、遅行指数には600、先行指数には500をそれぞれ加算してある。  
資料)宮崎県県民政策部統計調査課

採用景気指標	
先行指数 (5項目)	1. 新規求人数(パート含む)
	2. 新車登録台数(乗用車)
	3. 鉱工業在庫率指数(逆)
	4. 新設住宅着工戸数
	5. ホテル・旅館宿泊客数
一致指数 (7項目)	1. 有効求人倍率
	2. 大口電力使用量
	3. 大型小売店販売額(実質)
	4. 鉱工業生産指数
	5. 鉱工業出荷指数
	6. 輸入通関実績(実質)
	7. 雇用保険受給者実人数(逆)
遅行指数 (5項目)	1. 鉱工業在庫指数
	2. 資本財出荷指数
	3. 貸出約定平均金利
	4. 家計消費支出(勤労者世帯)
	5. 消費者物価指数 (持家の帰属家賃を除く総合)

景気動向指数：景気に敏感な経済指標を複数取り上げ、それぞれの値を 3 カ月前の値と比較して増加したものの割合を出したもの。景気の現状を表す一致指数と、一致指数に数カ月先行して動き、景気の先行きを表す先行指数、数カ月遅れて動く遅行指数の 3 つがある。一致指数が数カ月連続して 50%を上回った場合、景気が上昇局面にあることを示す。

景気動向指数の算出方法

$$\text{景気動向指数} = (\text{プラス項目数} + \text{横ばい項目数} \times 0.5) \div (\text{プラス項目数} + \text{横ばい項目数} + \text{マイナス項目数}) \times 100(\%)$$

2. 鉱工業生産

12 月の鉱工業生産指数は、108.7 で前年同月比 3.0%増と 4 カ月連続で前年を上回った。

主要業種別にみると、食料品（前年同月比 0.2%減）は前年を下回ったものの、電子部品・デバイス（同 35.9%増）、化学（同 2.2%増）、繊維（同 7.0%増）は前年を上回った。

3. 建設関連

① 公共工事

2 月の公共工事請負高は、55 億 7,800 万円で前年同月比 47.8%減と 3 カ月ぶりに前年を下回った。

発注者別にみると、国が同 77.9%減、県が同 22.6%減、市町村が同 4.6%増、その他（独立行政法人等）が同 69.2%増となった。

② 着工建築物

1 月の着工建築物は、棟数 401 棟で前年同月比 16.6%減、床面積は 6 万 762 ㎡で同 35.1%減となった。

内訳をみると、居住用は棟数同 13.2%減、床面積同 20.9%減となり、非居住用は棟数同 29.1%減、床面積同 56.1%減となった。

非居住用の床面積を用途別にみると、鉱工業用同 66.0%減、商業用同 76.0%減、サービス業用同 22.2%減となった。

### ③ 住宅着工

1月の新設住宅着工戸数は、418戸で前年同月比29.4%減と11カ月連続で前年を下回った。  
利用関係別にみると、持家は同10.0%減、貸家は同52.0%減、分譲は33.9%減（マンションは前年77戸→本年39戸、一戸建てが同44戸→41戸）となった。

## 4. 個人消費関連

### ① 大型小売店販売動向

1月の大型小売店販売額は、70億5,000万円で前年同月比0.7%減と6カ月ぶりに前年を下回った。

商品別では、衣料品は19億5,200万円で同8.8%減、飲食料品は28億7,400万円で同3.6%増、その他計は22億2,400万円で同1.8%増となった。

### ② 乗用車新車販売動向

2月の乗用車新車登録台数は、1,929台で前年同月比22.9%減と6カ月連続で前年を下回った。  
車種別にみると、普通車は868台で同24.8%減、小型車は1,061台で同21.3%減となった。

## 5. 空港乗降客数

1月の宮崎空港乗降客数は、22万9,969人で前年同月比0.1%減と2カ月連続で前年を下回った。

乗客数は12万3,538人（前年12万3,692人）と減少し、降客数も10万6,431人（前年10万6,577人）と減少した。

## 6. 消費者物価指数

1月の宮崎市の消費者物価指数は、103.3で前年同月比2.5%上昇した。

これを費目別にみると、光熱・水道（前年同月比4.6%増）、食料（同4.4%増）、被服及び履物（同3.8%増）など10費目の全てが上昇した。

## 7. 企業倒産

2月の企業倒産件数（負債額1,000万円以上）は、2件で前年同月比71.4%減と2カ月連続で前年を下回り、負債総額は2,200万円で同96.9%減と2カ月連続で前年を下回った。

業種別では、小売業が2件となっている。

## 8. 雇用情勢

1月の有効求人倍率は、0.97倍で前月から0.02<sup>ポイント</sup>悪化した。

新規求人数は、9,317人で前年同月比1.7%増となった。

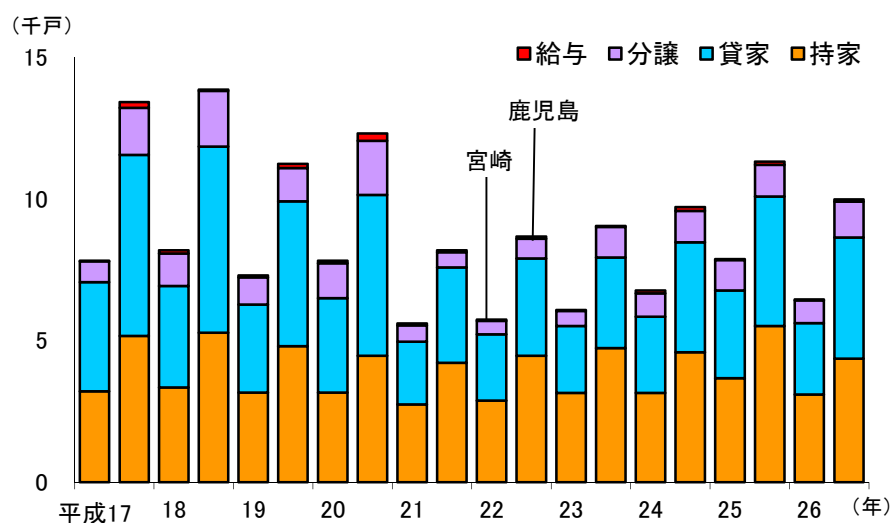
製造業は同22.9%増、サービス業（他に分類されないもの）は同14.1%増、運輸業、郵便業は同31.2%増など10産業が増加となった一方で、学術研究、専門・技術サービス業は同63.7%減、卸売業、小売業は同6.9%減など8産業が減少した。

雇用保険受給者数は、4,791人で同12.4%減と32カ月連続で減少した。

## 〈今月のトピックス〉～ 平成 26 年の新設住宅着工戸数

国土交通省によると、平成 26 年の宮崎県の新設住宅着工戸数は 6,440 戸で前年比 18.2%減となり、5 年ぶりに減少した。利用関係別にみると、持家 3,090 戸（前年比 15.8%減）、貸家 2,514 戸（同 18.5%減）、分譲 808 戸（同 24.6%減）、給与 28 戸（同 33.3%減）となり、全ての利用関係で減少した。

### 新設住宅着工戸数の推移



資料) 国土交通省